



4 水辺・河川

河川を生きし水辺と緑が一体となった地域の潤い空間をつくる

水辺・河川は、治水や利水、そして多様な生き物の生息環境の保全などの機能の他、花火大会やいかだ下りなどのイベント空間、散策やジョギング、水面を使った遊び空間などに活用され、私たちにとっては、身近で親しみの持てる施設です。

水と豊かな緑が一体となった空間は、魅力的でゆとりと潤いを感じさせてくれます。

同じ河川でも、地形により川幅や流れが異なり、多様な様相を見せるため、水辺・河川を通して変化に富んだ景観を効果的に演出しましょう。また、地域の景観要素や公園や道路の緑とつなぐなど、魅力的な景観をデザインをしましょう。

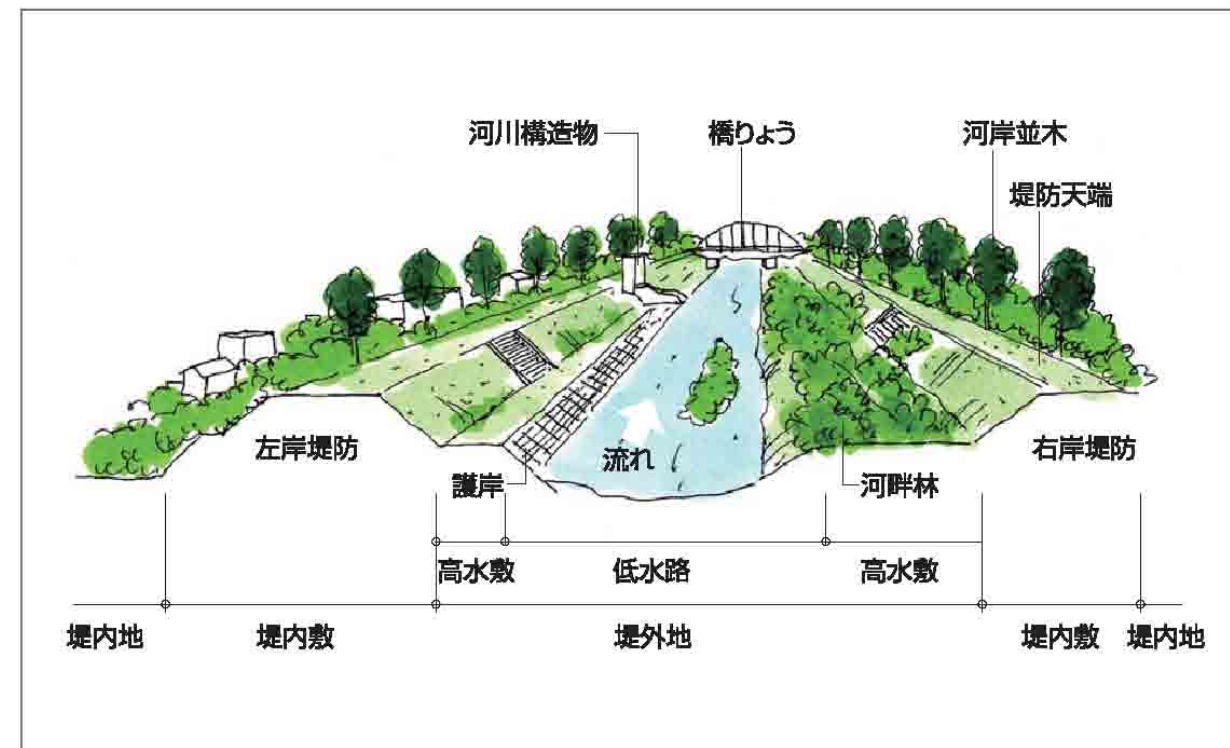
さらに、多様な生き物の生息環境を保全することに十分配慮し、デザインを行う必要があります。

(1) 『地』と『図』の分類

水辺・河川の景観では、手付かずの自然の河川、治水が主な機能となっているもの、用水路として使われているものなど利水が主な機能となっているものを、『地』として位置づけます。

また、公園内などにおいて親水空間として整備されるものや、高水敷に運動施設などがあるもの、またダムや水源池など、水を通し独特の景観が形成され人を集めているものを、『図』として位置づけます。

河川のようにつながりのある施設は、同じ河川であっても場所によって『地』と『図』が入れ替わることがあります。このため、『地』と『図』の接続部分については、景観的に連続するよう調整が必要となります。

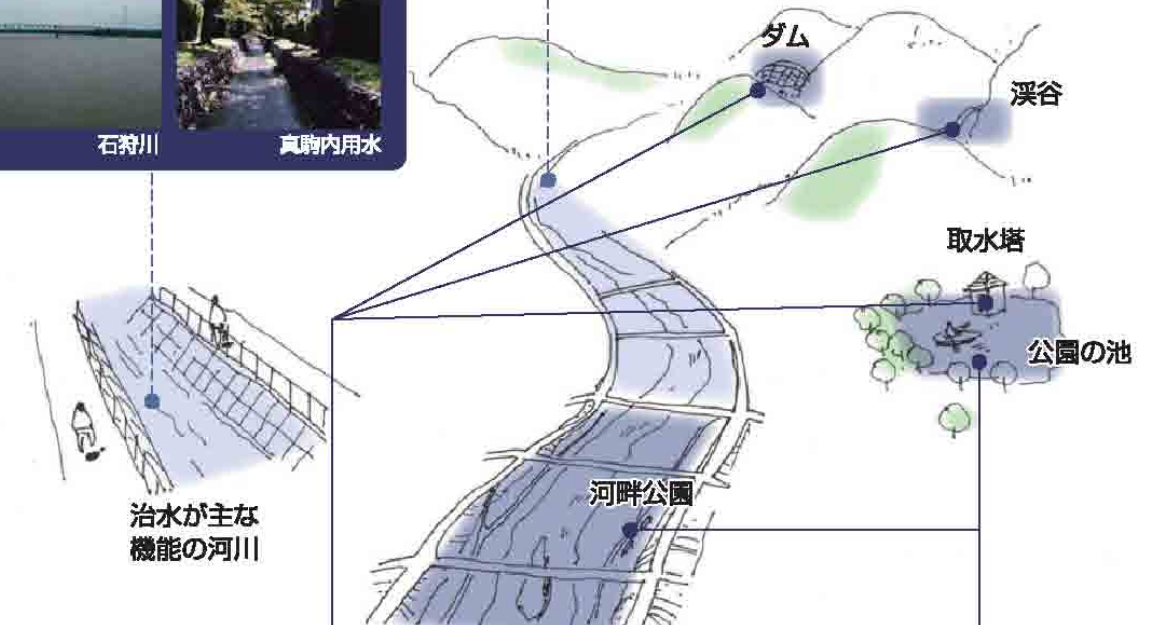
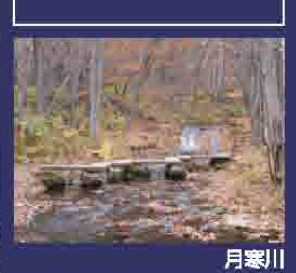


地の水辺・河川の例

治水、利水が主な機能となっているもの



手付かずの自然のもの



図の水辺・河川の例

水を通し独特の景観が形成され人を集めているもの



親水空間、市民利用施設などがあるもの





(2) デザイン手法

地

デザイン
の水辺・河川

手付かずの自然の河川、また、治水、利水目的を主とした人工的な河川となることから、自然景観をそのまま保全するとともに、多様な生物の生息する場を確保するため、積極的に緑化を行うなど、潤いのある都市景観を形成します。

水 水辺・河川の形態

河道

自然豊かな河川景観をつくる

- 山麓地などでは、自然そのまゝの水辺・河川景観を保全する。
- 広い高水敷を持つ河川は、山頂やテレビ塔の展望台など主要な視点場から俯瞰され、周辺の緑地とあわせ自然を象徴する景観軸となることから、河川全体の積極的な緑化を図る。



自然のままの水辺景観(豊平川)

河川の魅力をつくる

- 市街地内の河川で多くみられる掘込河道は、法面や法方への植栽を施し、川らしさを演出する。
- 小規模河川などにおいては、治水機能に留意しつつ、多自然型河川への切り替えを推進する。
- 淀みや瀬、洲の設置、また魚道の確保により、河岸や橋上からサケなどの魚が見えるような魅力的な河川景観を形成する。



多自然型に改修された河川(精進川)

水 水辺空間をかたちづくるもの

市街地内の堤防・高水敷・護岸

堤防景観を演出する

- 連続した堤防形態を生かし、花が咲く樹木やポプラの並木などにより、季節感や地域性を演出する。
- 堤防天端や堤防の法面は、周辺地盤より高く、河川空間や山なみなどを望む良好な眺望が得られるため、散策路や視点場を確保する。
- 堤防の一律な連続は、単調な印象を与える傾向があることから、坂路、階段、植樹などを設け、景観に変化を与える。



手廻山を望む堤防天端を遊歩道として整備している(中の川)

高水敷は自然植生を基本とする植栽を行う

- 昆虫や鳥類など多様な生物の生息環境に配慮した、自然植生を基本とする植栽を行う。

護岸は自然なつくりとする

- 表面に凸凹のある自然石の採用や水際の水生植物の生育への配慮などにより、水中と陸上の生態系が入り混じった、豊かな生態系を育むつくりとする。
- コンクリート製の護岸は、一般に無表情なものとなりやすいため、大きな目地、骨材の工夫や表面処理などにより、自然な風合いを出すよう演出する。
- 異種の既存護岸との接続部は、緑地による緩衝帯を挟んだり、既存護岸のデザイン要素を一部取り入れることなどにより、景観的にちぐはぐな印象を与えないよう、デザインに十分に配慮する。



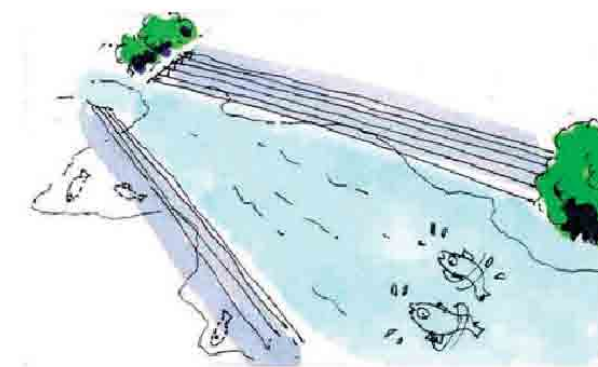
石と植生を織り交ぜ生態系の保全に配慮した護岸(月寒川)



自然石と植栽により独自の雰囲気演出している(鴨々川)

Ex.

生態系を考えない がっかり 事例

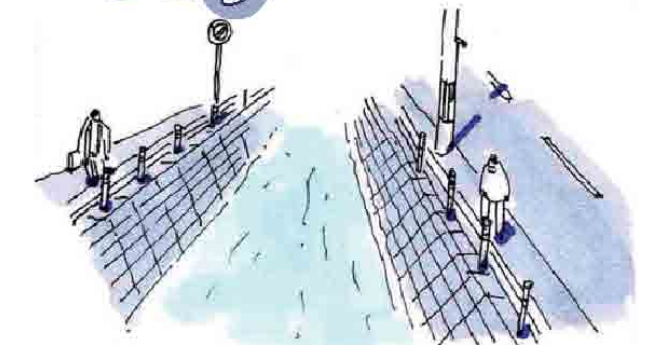


治水の点からのみアプローチした結果、淀みや瀬のない河川となり、魚などの生き物が生息しにくい河川になってしまった。
周囲に緑を植えたり、もう少し手を加えることで、いつのまにか淀みができ、生き物が生息しやすくなったかもしれない…。

Ex.

治水機能ばかり追求した がっかり 事例

護岸を計画する際、洪水時のことばかり考えていたら、日常目にする河川景観が無表情になってしまった。
護岸に蔦を這わせるなど、もう少し手を加えることで、表情をやわらげればよかった…。





水 水辺・河川の緑

河畔林

河畔林を保全する

- 河畔林は、魚つき林とも呼ばれ水辺の生態系を支える上で重要な役割を持つため、治水機能に留意しつつ、保全、形成を図る。



河畔林が河川景観を形成すると共に豊かな生態系を育んでいる(新川)

河岸並木

川らしさを演出する樹木を選択する

- 河岸並木はシダレヤナギやサクラ、モミジ、ポプラなど、自然植生に無理のない樹木を選択し、川らしさを演出する。

シンボルとなる樹木や並木などを保存する

- 一つのつながった河川景観の中で、河岸にあるシンボル樹木や特徴ある景観をつくっている並木を保存することで、地域らしさを演出する。



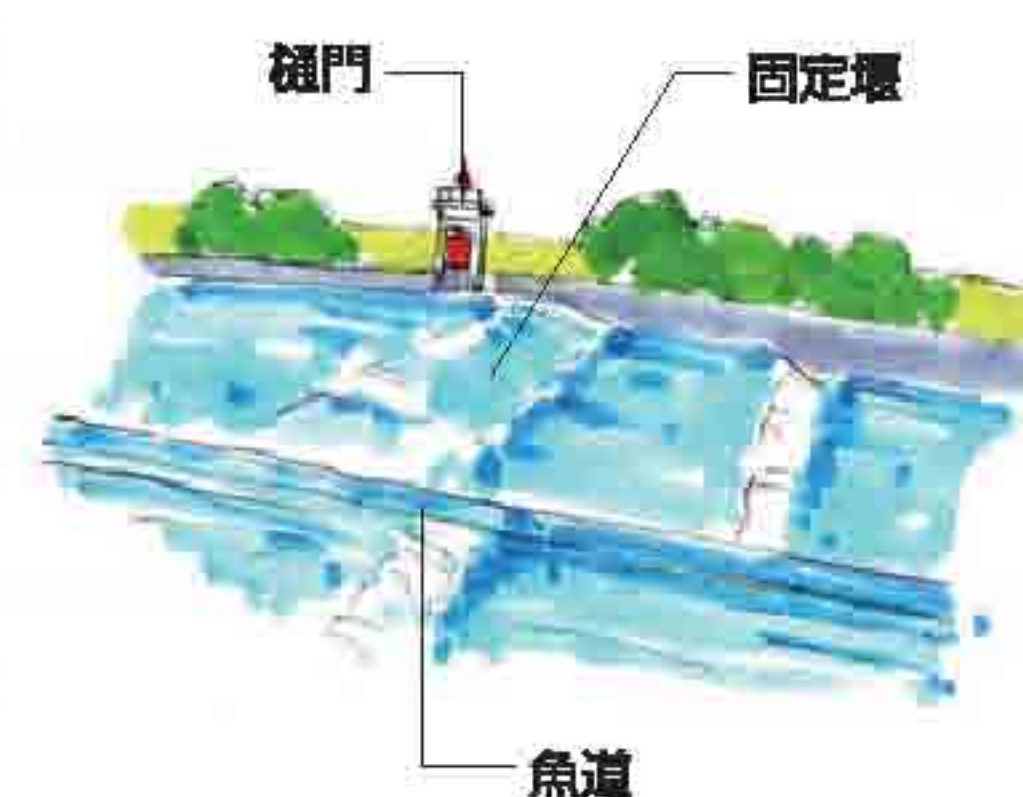
ポプラ並木がこの河川の特徴ある景観となっている(創成川)

工 工作物

河川構造物

水門、固定堰などは質の高いデザインとする

- 水門や樋門は、ともに垂直性の高い施設として、河川景観の中で特に目立つことから、門扉とともに、周辺景観に溶け込む質の高いデザインとする。
- 固定堰は、景観の面では、落差工により河川景観に変化を与え、波しぶきや音が楽しめる場となるため、高水敷や護岸に、この様子を楽しめる場所を設置する。
- 固定堰の断面形状を数段に分けることによって、水の表情がより豊かなものになるとともに、魚の移動を助けるやさしいつくりとなる。



柵、標識、案内板

柵は水辺への眺めを妨げない形態とする

- 川の流れや水辺の様子は、人に安らぎと潤いを与えるため、歩行者の目線から水辺・河川への眺めを妨げないシンプルな形状とし、周辺景観の中で目立たない色彩とする。



水辺への眺めを妨げないシンプルな柵(鴨々川)

標識・案内版はデザインの統一化を図る

- 河川標識は、統一化を図り、控えめでシンプルなデザインで、周辺に調和した色彩とし、橋詰や堰、支流合流部など、景観上影響が少なく、わかりやすい位置に設置する。

維持管理

公共が行う維持管理

適切な維持管理を行う

- 河川内に放棄されたゴミや上流から流下してきたゴミなどを除去し、良好な河川景観を維持する。
- 雨や不法行為などで崩れた堤防の法面を補修したり、河川の流水に支障を及ぼす恐れがある樹木などがある場合は、樹木の伐採を行うなど、河川景観を守りつつ、安全上問題が生じないよう計画的に維持管理を行う。

生態系の保全に配慮する

- 治水機能のみならず、生態系の保全に一層留意し、改修時には自然石の採用や緑化などによる整備を推し進め、より自然豊かな河川景観をつくる。

市民が行う維持管理

市民みんなの空間であるという意識を持つ

- 水辺・河川は、市民みんなが利用する施設であるという意識を持ち、花などの植栽や草刈、落ち葉やゴミ拾いなど、自分たちでできる維持管理を行い、美しさを保つよう努める。

改修

改修計画

住民の愛着のあるものを守る

- 河川の改修にあたっては、住民が愛着を持っている河畔林や淀みなど、野鳥や魚のすみかなどの生態系を守る計画とし、地域の景観を継承する。

Ex.

工作物のデザインしすぎの「がっかり」事例

水門の設計が初めてでデザインに力を入れすぎた結果、周辺から目立ちすぎてしまい山なみや河川景観に目がいかなかった。主役は河川だということに気付くべきだった!!





公園の親水空間として整備されるものや、高水敷に運動施設などがあるもの、また、ダムや水源池など水を通して独特な景観が形成されているものなど、多くの人が集まるところなので、誰もが快適に水辺空間を楽しめる工夫をするとともに、周辺地域との連続や周辺景観との関係に十分配慮したデザインとします。

水 辺空間をかたちづくるもの

堤防、高水敷、護岸

公園と一体的にデザインする

- 河川と公園が隣接するところや河川が公園内を流れる場合は、緑豊かな景観を形成するとともに、親水空間をつくり、公園と一体的にデザインする。



中島公園の一部として公園の雰囲気をもつ河川(鴨々川)

堤防は市街地の緑との連続性に配慮する

- 堤防は一段高くなっており、周辺市街地からの視覚的な連続性を分断するため、法面を積極的に緑化し、街路樹など、市街地から続く緑との連続化を図る。

高水敷は快適な空間を形成する

- 高水敷が広く、平坦で荒漠となりがちな場合は、植栽などにより空間を区分した、スポーツ施設などを設け、治水機能に留意しながら、高木を配置し、アクセントを形成する。
- 高水敷を公園として利用する場合、河川と接する特性を生かし、河川の水を引き込むことで、より親水性の高い公園にするとともに、河川と連続した水辺景観を形成する。
- 高水敷に設置されるベンチやトイレ、四阿(あずまや)などの工作物は、治水機能に留意しつつ、石や木など自然素材の採用により、河川景観に調和させる。



河川の水を引き込むことで親水性の高い空間となっている(琴似発寒川)

護岸は安全性と親水性に配慮する

- 護岸形状は、緩傾斜護岸や階段状の護岸とし、水際へ近づきやすいつくりとする。
- 護岸の素材は、周辺景観との調和を考慮し、自然石やウッドデッキなど、自然素材の採用に努める。



階段状のウッドデッキにより親水性が高く、水辺の景観に馴染んでいる護岸(琴似発寒川)

ダムや水源池など

ダムの雄大な景観を演出する

- 豊平峡ダムなどのダムは、構造規模が非常に大きく、溪谷に設置されることから、その雄大な存在感により観光地や公園などとして整備されることが多い。公園などの整備では、ダムの景観を損なわないよう、駐車場などの公園施設のデザインや配置に配慮する。
- ダムの機能はそれのみで成立するものではなく、橋りょう、管理事務所、発電施設などが一体的に整備されるため、ダムを主体にトータルな景観デザインとする。



雄大なダムと溪谷を生かした公園(定山溪ダム)

水源池、湿原

現在の姿を保全する

- 水源池や湿原は、野鳥やホタル、トンボをはじめとする貴重な動植物が生息する場として、また、他にはない独特の水辺景観を形成する場として、現在の姿を保全することを最も重視する。
- 自然とのふれあいや水辺景観を楽しむ空間をつくる場合は、地場産物の石や木など自然素材を活用することで、自然になじむつくりとする。



自然に馴染む木の柵やベンチ(西岡水源池)

工作物

柵、標識、案内板

周辺景観と調和したデザインの柵とする

- 柵、標識、案内板は、隣接する道路、公園、橋りょうとの景観的調和に配慮したデザインとする。



河川の穏やかなイメージと調和したデザインの柵(鴨々川)

安全・安心

安全・安心

親水性と安全・安心を両立させる

- 親水性を持つ水辺・河川については、多方面から活動が見えるよう死角を作らないよう配慮し、親水性と安全・安心の両立を図る。



5 橋りょう

場所性を広い視野から捉え、周辺環境を生かす

橋りょうは、道路と同じような機能を持つとともに、河川などによって隔てられた人と人、地域と地域を結びつける、玄関口としての役割を担っています。

景観的には、車、電車、歩行者など、さまざまな利用者から見られ、構造が上部と下部の立体的となっているため、周辺からの視点、橋上の視点、下からの見上げる視点などそれぞれに異なった様相を見せます。

異なる地域の特性を取り込みながら、さまざまな視点場から検討し、構造美を景観デザインに十分生かしましょう。

(1) 『地』と『図』の分類

橋りょうは、道路の延長として、そのほとんどを『地』として位置づけ、ミュンヘン大橋や水穂大橋などのようなランドマークとなる橋りょう、渓谷に架かるアーチ橋や公園内の木造の橋など、特徴的な景観を形成している橋りょうを『図』として位置づけます。

『図』の橋りょうは、道路では、主要幹線道路や幹線道路、公園などでは、主要園路に架かるものが想定され、そのランドマーク性により利用者を誘導することから、隣接するその他の『図』となる公共施設との関係、地域と地域をつなぐ橋渡しとしての役割も考慮しながら、『地』となるのか『図』となるのかを、個々に検討していく必要があります。

地の橋りょうの例

道路の延長としての橋りょう



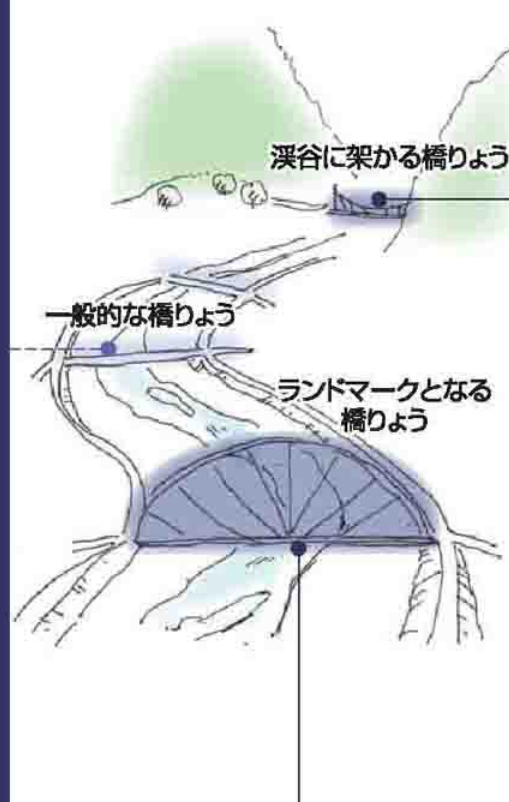
五輪大橋



発春橋

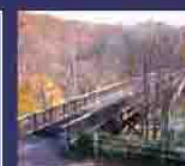


南大橋



図の橋りょうの例

特徴的な景観を形成している橋りょう

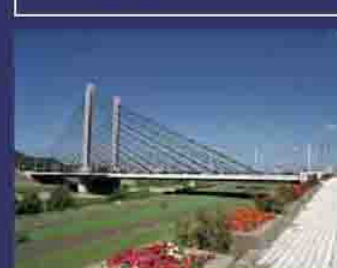


平岡公園内の木造橋



二見吊橋

ランドマークとなる橋りょう



ミュンヘン大橋

(2) デザイン手法

地
デザイン
の橋りょう

機能的で使いやすく、控えめでシンプルなデザインとします。高水敷を利用している河川においては、桁側面だけでなく、桁下からも見られることを考慮し、デザインする必要があります。

構造形式

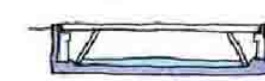
構造形式の選定

シンプルな構造体とする

『地』となる橋りょうの構造は、「桁橋」「ラーメン橋」「アーチ橋」など、道路の延長として見えるシンプルな構造体とする。



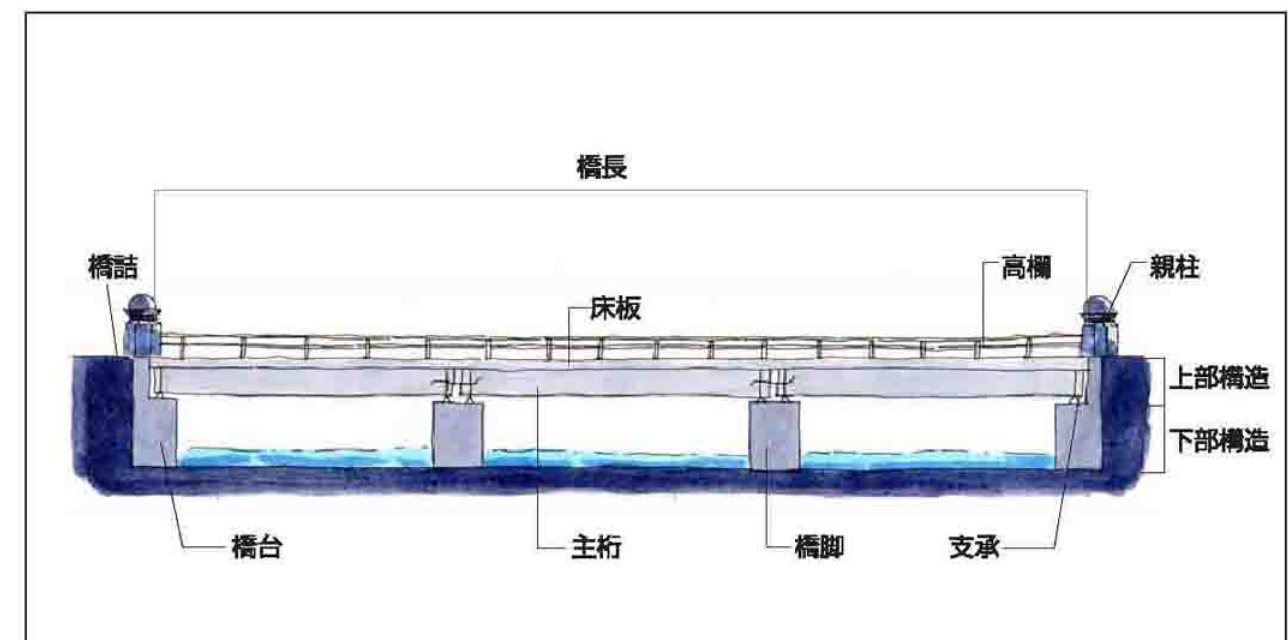
桁橋



ラーメン橋



アーチ橋(上路式)





橋りょうデザイン

全体デザイン

すっきりした軽やかなデザインとする

- 桁側面や橋脚は、量感や重苦しさを軽減したデザインとする。
- 桁下からの見え方に配慮し、橋脚と桁の接合部の収まりをすっきりさせる。
- 配水管は橋りょうのスリットに埋め込んだり、橋りょうデザインの一部としてみせるなどの工夫をする。



スッキリとした桁下(南大橋)

橋上空間

周囲と連続したシンプルなデザインとする

- 隣接する「図」となる公共施設等や歴史的な景観資源などとの関係を取り入れる。
- 親柱や橋上の付属物は、具象的な装飾や華美なデザインを避け、シンプルなデザインとし、橋りょう本体との統一感に配慮する。
- 高欄は、歩行者や運転者が、美しい河川景観を眺められるよう軽やかなデザインとする。
- 歩道部分の舗装は、誰もが歩きやすい耐久性のある素材を選定し、過度の模様貼りを避けシンプルなデザインとする。
- 橋りょうへのアプローチ道路と、橋上空間の連続性を持たせる。



河川への見通しを確保するシンプルな高欄(南大橋)

色彩

周辺景観との調和を図る

- 両隣の橋りょうの色との関係を考慮しつつ、周辺の視点場から背景となる山なみ、周辺の緑、街なみと重なりあって、橋りょうがどのように見えるかを四季を通して検証し、決定する。

維持管理

公共が行う維持管理

適切な維持管理を行う

- 損傷が見受けられる箇所の補修、補強や防錆性確保のための定期的な塗装など、定期的に点検、調査、補修などを行う。

当初のデザイン意図を尊重する

- 塗り替えにあたっては、整備時のデザイン意図を尊重する。

改修

改修計画

住民の愛着のあるものを守る

- 河川の改修にあたっては、住民が愛着を持っている河畔林や淀みなど、野鳥や魚の住みかなどの生態系を守る計画とし、地域の景観を継承する。



周辺景観の中で、人をひきつけ、地域のランドマークとなることから、特に質の高いデザインを行う必要があります。

また、橋上から眺められる、水面を通して望む山なみへと続く眺望景観は、河川特有の景観であり、そのドラマティックな景観を演出する視点場となることにも留意する必要があります。

橋りょうのデザインは、構造形式、構造体そのもので決まってしまうため、構造美を持つ橋りょうとするには、初期の段階から景観設計に力を注ぐ必要があります。

構造形式

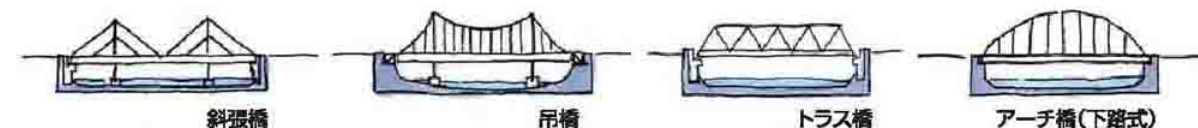
構造形式の選定

美しい橋りょうをつくる

- 材料、構造形式、支間割、色彩を総合的に検討し、構造美を持つ橋りょうをつくる。

場所にふさわしい構造形式を選定する

- 「図」となる橋りょうは、上部に構造体が現れることでランドマークとなる「斜張橋」「吊橋」「トラス橋」、側面に独特のシルエットを持つ「アーチ橋」が考えられる。しかし、周辺環境によっては、上部に構造体を現さず、橋りょうの平面形状や線形、親柱や高欄などで橋上空間を工夫し、「図」とする手法もあるため、その場所にふさわしいつくり方を選定する。
- 視点場から見える山なみへの眺望、河川景観の連続性を断ち切らないよう留意し構造形式を選定する。
- 積雪時に地上部の構造体から通行する歩行者や自動車に雪を落とさないことに留意する。



特徴的な平面形状の橋りょう



特徴的な線形の橋りょう



公園の自然景観に調和する木造橋(平岡公園内の木造橋)

場所にふさわしい材料を選定する

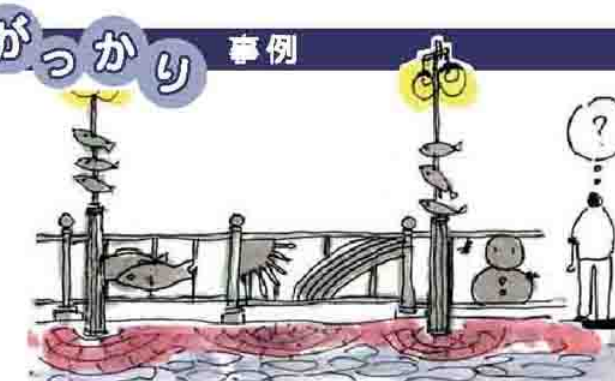
- 公園内などにある小規模な河川にかかる人道橋は、周辺景観との調和を考慮し、地場産出の石や木などの自然素材の採用を検討する。

Ex.

デザインしすぎの「がっかり」事例

印象的な橋上空間をつくるため、いろいろなデザインモチーフを持ち込んだため、それぞれが自己主張し、ちぐはぐな橋上空間となってしまった。

欲張りは禁物です。



5 橋りょう

◆公共施設等の景観デザイン



さまざまな方向から見え方を検証する

- 構造形式が上部に出る橋りょうは、河川敷からの見え方、橋詰めからの見え方、橋上からの見え方、桁下からの見上げなど、視点の移動によりさまざまな表情を見せるため、あらゆる角度からの見え方を検証し、デザインを決定する。



河川敷より見る(ミュンヘン大橋)



周辺道路より見る(ミュンヘン大橋)



橋の袂より見る(ミュンヘン大橋)



橋上より細部を見る(ミュンヘン大橋)



橋上より見る(ミュンヘン大橋)



河川敷より見上げる(ミュンヘン大橋)

視点場を設置する

- 橋りょうの橋詰めは、多くの人が河川を眺める視点場となることから、橋詰め広場を設置し、近景となる護岸などとあわせ一体的なデザインを行う。
- 橋上に立ち止まって楽しむ眺望景観や河川景観などが得られる場合には、橋詰めや橋りょう全体のデザインバランスをとりながら橋上バルコニーを設置する。



隣接する中島公園へのつながりを感じさせる広い橋詰広場(幌平橋)

ライトアップにより演出する

- 上部構造や桁側面など、橋の構造を美しく見せるライトアップによりランドマーク性を演出する。



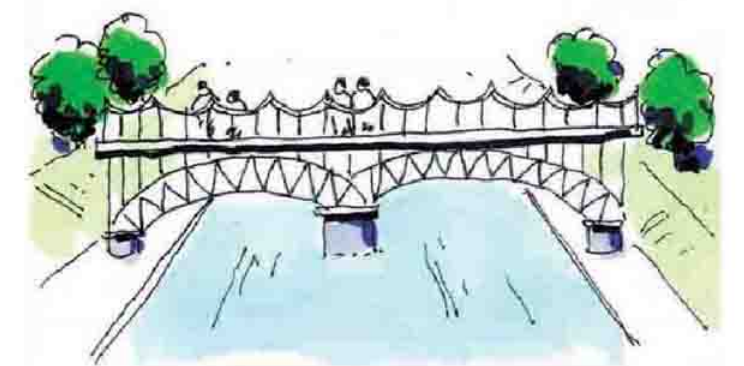
ライトアップにより夜間のランドマークにもなる橋(ミュンヘン大橋)

Ex.

デザインコンセプトが統一されていない **がっかり** 事例

主桁などの上部構造と橋脚などの下部構造が別々に設計され、全体的なバランスに配慮しなかったため、上部工と下部工がちぐはぐな橋となっていました。

お互いの意識を確認すればよかった…。



橋りょうデザイン

全体デザイン

全体のバランスを整える

- 下部構造と上部構造でデザインが分離しないよう、計画段階から詳細設計まで、デザインコンセプトの一貫性を保つ。



一体的にデザインされた橋(ボンノポロ橋)



6 公共建築物

地域の記憶づくりの先導役として、総合的視点でデザインする

公共建築物は、図書館、病院、学校、公営住宅など、施設の用途や規模がさまざまであり、また、個人が利用するものから、全市民が利用するものまで利用形態も多岐にわたっています。

景観的には、全市域から区レベルや近隣まで、さまざまな利用圏域を対象としているものがあり、地域の顔づくりを先導する役割を持っています。

利用者の年齢も幅広いため、どこでも誰でも自由に使うことができるよう、安全・安心の施設づくりを心がけるとともに、機能性だけでなく敷地内における公共的空間の創出、緑化、建物の意匠、形態や色彩などについて、さまざまな視点場から検討し、地域の景観特性を生かしたデザインをしましょう。

(1) 『地』と『図』の分類

公営住宅や清掃事務所などのように利用者が限定されるため、それほど視認性を要求しないもの、コンサートホールや市役所のように不特定多数が利用するため、視認性を要求するものに大きく分けられます。

利用者が限定されるプライベート性の高い公共建築物を『地』、誰もが利用するパブリック性の高い公共建築物を『図』と位置づけます。

しかし、『地』と『図』の境界があいまいな施設も想定されることから、計画する公共建築物が『地』となるのか、『図』となるのかについては、個々に判断する必要があります。

地の公共建築物の例

利用者が限定された施設



札幌市立山鼻中学校



札幌市立山の手南小学校



北海道札幌旭丘高等学校

市民利用の比較的少ない施設



南区土木センター



白石清掃工場

居住に利用される施設



市営住宅月寒団地月寒五区会館



道営住宅光星第4団地

図の公共建築物の例

全市の利用を対象とする施設



札幌ドーム



札幌コンベンションセンター(SORA)



札幌コンサートホール(kitara)

近隣の利用を対象とする施設



八軒まちづくりセンター



はちけん地区センター

区レベルの利用を対象とする施設



清田区役所



白石区体育館



中央図書館





(2) デザイン手法

地

デザインの
公共建築物

居住に利用される施設、小・中学校など、特定の市民が利用する施設として、それほど視認性を要求しないことから、過剰なデザインを避け、控えめでシンプルなものとしします。

特に周辺の建築物と一体となって街なみを形成することに留意するとともに、地域に開かれた空気を創出したり、敷地内を積極的に緑化するなど、街なみに緑の景観を提供するよう努めます。

地形

地形への配慮

地形を生かした計画を行う

- 環境負荷の軽減を図るため、山麓地や丘陵地においては切土、盛土はなるべく避け、地形の起伏を生かした計画を行う。
- 学校など敷地が広い場合は、施設の配置計画に留意し、道路ぎわに大きな擁壁ができないよう計画し、法面は緑化する。やむを得ず擁壁を設ける場合は、セットバックし、その部分を高木などで緑化する。
- 公営住宅の計画においては、地形を生かした住棟配置とすることで、変化に富んだ住宅地景観をつくりだす。



起伏のある敷地を生かした配置
(札幌市立大学)

街なみ

街なみとの調和

周辺建物と一体となり街なみをつくる

- 周辺の建築物に共通した壁面線がある場合は、連続性のある景観を形成するため、壁面線にそろえて配置する。
- 高さが高くなる場合は、歩行者への圧迫感を軽減するため、道路から建物をセットバックさせるとともに、セットバック部分に植樹などを行う。
- 規模の大きい施設が住宅地と接する場合は、街なみの連続性を確保するため、壁面の分節化や住宅と高さを揃えるなどの工夫をする。
- 大規模な壁面を持つ場合は、道路からの後退距離を十分に取るとともに、壁面の分節化とあわせ、敷地周囲に緑化を行う。
- 低層部は、歩行者の目線に近く、連続性のある街なみを形成する上で特に重要な部分であるため、周辺建物の軒線や仕上げ材、色彩などに留意する。



セットバック部分に植樹を行い壁面の
圧迫感を軽減に配慮した体育館
(白石区体育館)

地域に開かれた空間を創出する

- 敷地の街路側や角地などに、施設利用者だけでなく、誰もが利用できるパブリック性の高い空間を創出するとともに、植樹などを行い、居心地の良い空間を地域に提供する。

角地景観を演出する

- 交差点など、重要な視点場からの美しい眺望景観を阻害しないよう、建物の位置や高さを調整する。
- 交差点の角部に街角広場を設け、交差点部の視界を確保するとともに、この部分に緑を配し、うるおいとゆとりのある角地景観を創出する。
- 角地部分は、ボリュームのある緑地空間をつくり、緑が多い印象を与えるよう、効果的に空間を演出する。



緑豊かでゆとりある広場の角地景観
(北海道札幌西高等学校)

建築デザイン

全体デザイン

機能的で飽きのこないデザインとする

- 目新しさや話題性を追うのではなく、控えめでシンプル、機能的で飽きのこないデザインとする。
- 歴史的資源の再発見や再評価、土地の記憶の読み解き、改築前の建物との関係などを建築デザインの手がかりとする。
- 大規模施設は、一方向だけでなく四方から見てバランスの取れたデザインとする。
- 外壁は、汚れが目立たず、修繕しやすい材料を選ぶことで、維持管理のしやすさに配慮する。



隣接する河川や河川公園の景観から浮か
ないよう落ち着いた色彩を選定した清掃工場
(白石清掃工場)

施設特性に応じたデザインとする

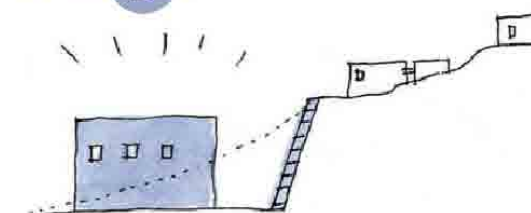
- 公営住宅は、同じデザインにより街なみが単調にならないよう留意するとともに、屋外階段、バルコニーなどは建築物本体と一体的にデザインする。
- 学校などは、山なみへの眺望など、きめ細かに敷地条件を捉え、場所性を生かすことで、歳月とともに愛着が増し、記憶をつくるデザインとする。

Ex.

地形を生かさないうっかり事例

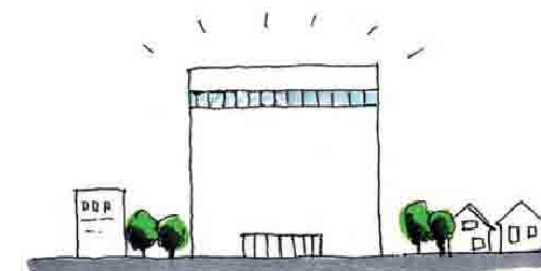
施設計画をしやすいとするため、起伏のある敷地を平坦にならして施設を建てたら、コストが高くなり、巨大なコンクリート擁壁ができてしまった。

地形を生かした計画にすればよかった!!



Ex.

周囲に圧迫感を与えるうっかり事例



体育館などの大壁面のデザインを分節することなく通りに面して配置したため、歩行者が圧迫感を感じるようになってしまった。

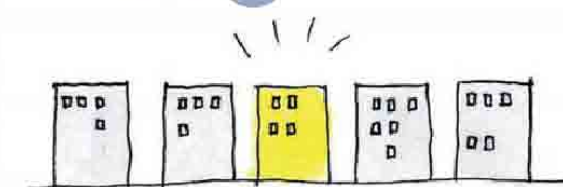
街なみの連続性を考えるべきだった!!

Ex.

街なみから浮いた色彩のうっかり事例

行為の届出が必要ない規模の建物のため、「札幌の景観色70色」を考えず、担当者の好みで鮮やかな色を選定したら、妙に目立ってしまった。

周りをもっとよく見ればよかった!!





1

細部のデザイン

積雪寒冷気候に配慮する

- 積雪や風向きに配慮して、雪庇や落雪が生じないよう屋根や外壁形状をデザインする。
- 吹き溜まりや風向を考慮した出入口の配置など、冬の生活のしやすさに配慮し、デザインする。

屋上設備を見えなくする

- 屋上設備などは道路から見えにくい位置に配置する。
- やむを得ず道路から見える場所に配置する場合は、壁面と調和する色彩などの目隠しを設け、目立たないようにする。

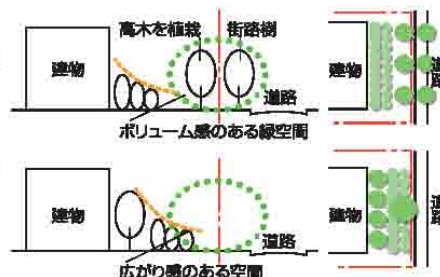
2

外部デザイン

外構

緑の保全、育成を図る

- 生態系に配慮した緑のネットワークを形成するため、街路樹、公園、河川などの緑と連続するよう、敷地内に緑を配置する。
- 街路樹のある道路に接する敷地では、街路樹の配置にあわせて道路側に高木、建物側に低・中木を配し、街路樹と一体となったボリューム感のある緑空間をつくる。
- 街路樹がない道路に接する敷地では、歩行者などへ広がり感を持たせるため道路側に低木を配し、建物側に中、高木を植える。更に、道路側にシンボル樹木を配して木陰をつくるなど、効果的な緑の演出を行う。
- 大規模な壁面を持つ施設は、周辺の街なみへの圧迫感の軽減を図るため、敷地外周に緑地帯や高木を設置する。
- シンボル樹木をはじめ、既存の樹木をできる限り保全、活用する。
- 落葉後の緑を補完する常緑樹の導入とあわせ、四季が感じられる樹種の配置を工夫する。
- 広い敷地を持つ場合は、ゆるやかな起伏と豊かな緑により、建物と一体的にランドスケープデザインを行う。



グラウンド中央に樹齢300年のハルミレの木を地域の景観木として残している
(札幌市立真駒内南中学校)

施設特性に応じて効果的に緑を配置する

- 小学校、中学校のエンタランスは、並木や大木をシンボリックに配置することで、子供たちの記憶をつくる景観を形成する。

アプローチは歩きやすい仕上げとする

- 道路から玄関へ至るアプローチは、段差を設けず滑りにくい素材を選定する。

塀や柵は開放的なしつらえとする

- 塀や柵は、道路からの視線に対し閉鎖的にならないよう高さを抑え、敷地内が見通せるようなつくりとする。
- 冬期間の道路の排雪に配慮し、道路ぎわに高い塀や車庫を設けない。
- 学校のグラウンドを囲う背の高いネットフェンスは、人工的な緑色に決め付けず、周辺景観に溶け込む落ち着いた色彩を選択する。

ゆとりある堆雪スペースを確保する

- 積雪時の活動を踏まえ、敷地内にゆとりある堆雪スペースを確保する。



敷地が見通せる高さの塀と落ち着いた色調のネットフェンス(札幌市立真駒内南中学校)

駐車場

街なみに配慮した駐車場とする

- 駐車場は、街なみに配慮した場所に配置するとともに、計画の初期段階から外周の緑化スペース部を見込んでおく。
- 平面駐車場の規模が大きくなる場合は、分散配置や緑により分節化を図る。



盛土と植樹により通りから見えにくい駐車場(市営住宅南郷団地)

夜間景観

温かみのある夜間景観を演出する

- 外灯は、道路側の防犯も考えて配置する。
- 寒冷気候に配慮し温かみのある夜間景観を演出する。
- 建物の外壁や植栽になじむ色彩とし、シンプルなデザインとする。



エンタランスの温かみのある灯り
(札幌市立真駒内南中学校)

仮囲い

歩行者が楽しめる工夫をする

- 工事の仮囲いは、街なみの連続性を断ち切らないよう、周辺の街なみに合ったデザイン、色彩を選択する
- 工事期間が長期に渡る場合は、仮囲いの緑化や工事現場の中が見えるようなしつけを設けるなど、歩行者が楽しめる工夫をする。



歩行者が楽しめるよう適度なイラストを施した仮囲い

維持管理

公共が行う維持管理

計画的な維持管理を行う

- 長期修繕計画に基づく計画的な維持管理により、建物の長寿命化を図る。
- 維持管理にあたっては、当初の設計意図を尊重する。
- 改築にあたり、その建物デザインが地域の景観として親しまれている場合は、外観のデザインを継承する。

市民が行う維持管理

市民みんなの空間であるという意識を持つ

- 公共建築物は、市民みんなが利用する施設であるという意識を持ち、一人ひとりが大事に使いながらいつまでも美しさを保つよう努める。

改修

改修計画

住民の愛着のあるものを保存する

- 公共建築物の改修にあたっては、住民が愛着を持っている樹木の保存や外観デザイン、外壁の素材などを保存、活用し、地域の景観を継承していく。

4

公共施設等の景観デザイン

5

4

公共施設等の景観デザイン

5



誰もが利用するパブリック性の高いものであり、施設の利用圏域から、全市を対象とする施設、区レベルを対象とする施設、近隣を対象とする施設に区分されます。

これらの施設は、視認性が求められるため、利用圏域の大きさに応じた顔づくりを行います。

また、『図』の公共建築物は、建物だけでなく、周辺の道路、公園・緑地、水辺・河川など、他の公共施設等と連携してデザインすることが、景観形成上効果的です。

全市を対象とする施設

建築デザイン

札幌を代表する美しいデザインとする

- 都市を代表する施設として、シンボル性が高く美しく洗練されたデザインとする。
- 経年変化(エイジング)により深みが出る素材を選び、飽きのこない、いつまでも愛されるデザインとする。
- 周囲の民間建築物とのデザイン的な競合を避けるため、建築物周囲にゆとりあるオープンスペースを確保する。
- 敷地条件を考慮し、一方向だけでなく全方向において正面性のあるデザインを施すなど、きめ細かなデザインとする。
- 景観の背景となる建築物などについては、『図』のデザインと競合しない形態や色彩とするため、景観誘導を図る。



公園景観に馴染みつつ、シンボル性の高いデザイン(札幌コンサートホールkitara)

外構

緑化により背景を整える

- 可能なかぎり敷地全体を緑化し、シンボルとなる建築物の背景を整える。
- 大規模な駐車場が必要な場合は、敷地内にゆとり空間を創出したり、建築物とのデザイン的な競合を避けるため、地下化や施設の壁面緑化などを行う。



壁面緑化するため鷹の巻きつくポールを外壁に設置した駐車場(札幌コンベンションセンターの駐車場)

夜間景観

美しい夜間景観を演出する

- 玄関ホール、アトリウム、窓など、建物全体からもれる明かりを考えつつ、多様な光をデザインし、美しい夜景を演出する。
- ライトアップにより、昼間とは違った見え方を演出する。



ライトアップにより夜間のシンボル施設となっている施設(モエレ沼公園ガラスのピラミッド)

区レベルを対象とする施設

建築デザイン

地域性を表現する

- 札幌軟石など地域に産出する素材の活用、地域の歴史的資源の掘りおこし、これからの地域のあり方などを把握し、地域の顔として愛着の持てるデザインを行う。
- 自然石やレンガなど、時間の経過とともに味わい深い表情となる素材の使用を検討する。



史跡を保存するとともに敷地に緑地空間をつくり、向かい合う神社と一体的となつて豊かな緑の景観をつくっている(西区役所)

角地景観を演出する

- 敷地が角地の場合は、向かい合う建物との形態や色彩の調和を図るとともに、緑地空間を確保することで、通りの結節点となる印象的な街角景観を創出する。

外構

地域性を表現する

- 自然植生に合った特徴ある樹木や草花により、地域性を表現する。

施設相互の一体的な利用を図る

- 建築物と連携し、多様な市民活動ができる場として、屋外交流スペースを設置する。
- 当該敷地に公園が隣接する場合は、事業者間の調整を図り、公園と一体的に利用できるような計画とする。



隣接する公園と一体的に利用できる施設(中央図書館)

近隣を対象とする施設

建築デザイン

愛着の持てる施設をつくる

- 山なみへの眺望など、きめ細かに敷地条件を捉え場所性を生かすとともに愛着が持てるデザインとする。
- 人の動きにより活気あるまちの景観を創出するため、外部から内部活動がわかるような開放的なつくりとする。
- 駐車場を計画する際は、イベントなどさまざまな活動に対応できる場となるよう、照明や舗装などをデザインする。



建物内と連携して利用できる駐車場兼用のオープンスペース(はちけん地区センター)